ふるさと

漢那浪笛

青空文庫

無言

常によく見る女(ひと)なれど、
心の欲を云ひいでむ、
また、語るべき機会(をり)もなく、
胸もどかしく、過ぎゆくか。

実にも二人(ふたり)がその中は、
砕けちりしく花硝子(ガラス)――
夕日の国の寂寥に、
絡(から)みて沈む香(かう)の色。

せめては夢にその女(ひと)と、
微笑(ほゝゑみ)つくる嬉れしさを、
ふかき思ひに抱きしめ、
無言の恋をくちづけむかな。

移香

ながき黒髪(くろげ)のその中に、
あやしく匂ふまなざしの、
たゆたひつゝもしなやかに、
見つむる色の、不思議さよ。

花毛氈の草のへに、
彩羽(あやは)うちふる、楽の譜か、
姿すゞしく、移香(うつりか)の、
やをら心にしみいりて、

愛の泉にゆあみする、
新らしき、吾が酔ひごゝち。

真昼

子守唄、静かにうかび、
平安の木かげの夢を
ゆりさます、真昼のまひる。
吾れは今、椰子の実こぼる
南(みんなみ)の、森をしたひて

草にふし、豆の葉とりて、
恋愛の、一つにもゆる
唇に、曲(ふし)折りかへし、
若かき日の、心うたひぬ。

屠牛

嘯き吼ゆる黄牛よ、
目路にかゞなふ、屠殺場(はふりば)を
知るやしらずや、あな哀れ、
ものおぞましき足どりに、
牧場の草を、いでたちぬ。

青空文庫情報

底本：「沖縄文学全集　第1巻　詩※［#ローマ数字1、1-13-21］」
国書刊行会
　　1991（平成3）年6月6日第1刷
初出：「琉球新報」
　　1909（明治42）年6月6日
※底本では、見出し「無言」のみ5字下げて二行取りの横罫の下に記載され、文字サイズが一段階小さく表示されています。
入力：坂本真一
校正：良本典代
2016年10月28日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

ふるさと

漢那浪笛

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/